

## 5 概 況

水道事業会計は、従来からの水道事業と、平成18年度から法適用された鶴形簡易水道事業の2事業から構成されている。鶴形簡易水道事業は、水道事業と比較し、平成25年度決算で給水人口が1.3%、年間総配水量が0.9%と小規模な事業であるが、水道事業と給水施設を共有している部分はない。平成24年4月使用分からの料金改定において、基本料金、従量料金ともに水道事業単価と統一しているが、予算上は水道事業と款項を別にし、事業別に財務内容を確認できるものとなっている。

水道事業会計の業務実績を見ると、当年度の給水人口は水道事業が43,215人、鶴形簡易水道事業が569人で、給水区域内の普及率は水道事業が94.9%、鶴形簡易水道事業が96.3%となっている。また有収率は、水道事業が86.5%で前年度比0.1ポイントの増、鶴形簡易水道事業が92.6%で前年度比7.1ポイントの増となっている。詳細については、「6 業務実績について」に記述している(P3~4)。

経営成績を見ると、当年度純利益は合計168,360,876円で前年度に比較して35,280,366円(26.5%)の増となった。この主な要因は、給水収益が鶴形簡易水道事業では若干の減となったものの水道事業会計では増となったことや、営業費用及び営業外費用が減となったことによるものである。詳細については、「7 経営成績について」に記述している(P5~10)。

当年度の財政状況を見ると、資本では、企業債の借入額が減少したことにより、借入資本金が前年度に比較して282,967,645円(4.2%)の減となっている。また、資産では、現金預金等の増により流動資産が増えた一方、固定資産では減価償却費が資産の増加分を上回ったことにより、前年度に比較して95,758,137円(0.7%)の減となっている。詳細については、「8 財政状況について」に記述している(P11~16)。

給水収益の収入状況を見ると、現年度分の収入率は水道事業が97.9%、鶴形簡易水道事業が99.1%となっている。繰越分の収入率は水道事業が67.9%、鶴形簡易水道事業が100.0%となっている。詳細については、「9 収入状況について」に記述している(P17)。